



# 株主通信

第152期 上半期 (平成29年4月1日 ~ 平成29年9月30日)



*zoom-zoom*

## 株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。マツダグループの第152期 上半期の株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

2017年11月  
代表取締役社長兼CEO(最高経営責任者)

小飼雅道

### 業績の概況

当上半期のグローバル販売台数は、グローバルで販売が本格化した新型「マツダ CX-5」などのクロスオーバー系車種が販売をけん引したことにより、前年同期比1%増の78万3千台となり、上半期として過去最高の販売実績となりました。

連結業績は、売上高は為替相場の円安影響等により1兆6,566億円(前年同期比7%増)となりました。出荷台数の減少や将来の成長に向けた研究開発費用の増加等により、営業利益は765億円(同13%減)となりました。四半期純利益(親会社株主に帰属する四半期純利益)は633億円(同13%増)となりました。

米国においては、厳しい販売環境が続いていますが、競争が激化しているセダン系車種のマーケティング施策を強化するとともに、好調なクロスオーバー系車種の商品力を軸に、重点市場に経営資源を集中することで、販売トレンドの改善を図っていきます。

通期連結業績予想につきましては、期初計画から変更ありませんが、為替前提を実勢レベルに修正するとともに、主に米国での販売環境悪化に伴う台数影響や販売費用の増加見

通しを反映しました。配当金につきましても、期初計画から変更ありません。中間配当は、1株当たり15円とし、期末配当20円と合わせた年間配当金は1株当たり35円を予定しています。

### 「構造改革 ステージ2」主要施策の進捗状況

商品・開発領域では、新型3列シートクロスオーバーSUV「マツダ CX-8」の予約受注を9月に国内で開始し、受注は好調です。また、国内主要5車種への先進安全技術「i-ACTIVSENSE(アイ・アクティブセンス)」の標準装備化を完了し、今後はグローバルでの標準装備化を進めます。販売領域では、ブランド価値向上に向けた販売ネットワーク改革を引き続き推進しています。生産領域では、本社工場で8月にクロスオーバー系車種の生産能力を拡大し、防府工場で10月に新型「CX-5」の生産を開始するなど、複数の車種やボディタイプを需要に応じて生産できる体制の構築を進めています。

「構造改革 ステージ2」の最終年度である2019年3月期の経営指標(グローバル販売台数165万台、連結売上高営業利益率5%以上、自己資本比率45%以上、配当性向20%

以上)の達成に向け、主要施策は計画通りに進捗しています。各国の環境規制強化、米国での販売競争激化などのビジネス課題に対して、全領域の質的成長とブランド価値向上に努め、さらなる成長に向けて取り組んでいきます。

## 技術開発長期ビジョンを公表

2017年8月に2030年を見据えた技術開発の長期ビジョン「サステナブル“Zoom-Zoom”宣言 2030」を公表しました。世界の自動車産業を取り巻く環境の急激な変化を踏まえ、より長期的な視野に立ち、クルマの持つ魅力である「走る歓び」によって、「地球」「社会」「人」それぞれの問題解決を目指す私たちの新しいチャレンジです。「地球」の領域において、クルマのライフサイクル全体を視野に入れ、「Well-to-Wheel (燃料採掘から車両走行まで)」の考え方にに基づき、本質的なCO<sub>2</sub>削減により、豊かで美しい地球と永続的に共存できる未来を築くことを目指しています。それを実現するため、実用環境下でのCO<sub>2</sub>削減と、各地域における自動車のパワーソースの適性やエネルギー事情、電力の発電構成などを踏まえて、内燃機関や電動化技術を適材適所で展開していきます。また、「社会」の領域については、安心・安全なクルマと社会の実現により、すべての人が心豊かに生活できる仕組みを創造します。「人」の領域では、「走る歓び」にあふれたクルマを通じて、地球を守り社会を豊かにすることで、人々の心の充足を提供することを目指します。

今回の東京モーターショー\*では、内燃機関の理想追求を中心に、次世代技術や次世代デザイン、それらを採用したコンセプトモデルなどを展示し、将来に向けた新たな一歩をご覧いただきました。お客さまに必要とされ、お客さまと強い絆

を持つブランドでありたい。常にお客さまの期待を超える商品でお客さまをおもてなしたい。それが私たちの目指す「マツダプレミアム」の姿です。

\* 2017年10月28日(土)～11月5日(日)東京ビッグサイトで一般公開

## トヨタ自動車株式会社との業務資本提携

トヨタ自動車株式会社とマツダは、8月4日に持続的な協業関係のさらなる強化を目的として、業務資本提携に関する合意書を締結しました。

自動車産業は今、環境・安全に関わる規制強化、異業種参入、モビリティビジネスの多様化など、大きな変革期を迎えています。このような状況下で両社は、それぞれが得意とする技術や事業基盤のさらなる強化、協力関係の深化により、持続的成長を実現していきたいと考えています。

今後、両社はそれぞれの経営の自主性を尊重し、対等かつ良好な関係を中長期にわたり構築することで、今回合意した各共同プロジェクトでの協業実現に向けて検討を進めます。「クルマの新たな価値創造」に向けて長期的パートナーとして相互協力をさらに加速・発展させ、お客さまのご期待に応えることを通じて持続可能な社会の発展に貢献していきます。

今後も持続的な成長を目指し、コーポレートガバナンス体制のさらなる充実や、地球環境保全や安心・安全な社会の実現といった社会的課題の解決と企業価値向上の両立を目指して取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

# CLOSE UP

## 第45回東京モーターショー

### 「『走る歓び』で、クルマを愛する人に人生の輝きを提供する」

マツダは、8月に公表した技術開発長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言 2030」において、世界の自動車産業を取り巻く環境の急激な変化を踏まえ、より長期的な視野に立ち、クルマの持つ魅力である「走る歓び」によって、「地球」「社会」「人」それぞれの問題解決を目指すことを宣言しています。

今回の東京モーターショーでは、今後の地球環境保全にもっとも大きな影響を与える、内燃機関の理想追求を中心に、次世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X(スカイアクティブ・エックス)」、次世代車両構造技術「SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE(スカイアクティブ・ビークル・アーキテクチャー)」、次世代デザインと、それらを体現した「マツダ 魁 CONCEPT(マツダ・カイ・コンセプト)」や、デザインビジョンモデル「マツダ VISION COUPE(マツダ・ビジョン・クーペ)」等を展示しました。

#### マツダの次世代商品群の先駆けとなる、世界初公開のコンパクトハッチバックコンセプト「マツダ 魁 CONCEPT」

内燃機関を搭載するクルマとしての理想を追求し、次世代技術と次世代デザインを融合した、マツダが目指す次世代のクルマづくりを体現したモデルです。全方位で飛躍的に洗練されたダイナミクス性能に加え、力強い塊感が際立つプロポーションと、ボディサイドの繊細な光の動きがもたらす生命感あふれるフォルムが特徴です。



#### 「マツダ 魁 CONCEPT」に搭載した技術・デザイン

##### 「SKYACTIV-X」

革新的な燃焼方式「火花点火制御圧縮着火」によって、ガソリンエンジンにおいて圧縮着火を実現した次世代エンジン「SKYACTIV-X」を搭載。ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの双方の利点を融合し、優れた環境性能と出力・動力性能を両立し、「人馬一体」の走りをフルサポートするマツダの新しい内燃機関エンジンです。



##### 「SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE」

人間が本来持っている能力を最大限に活用し、人とクルマの究極の一体化を実現する「SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE」を採用。次世代エンジンとあわせて、パフォーマンスフィールや乗り心地、静粛性など、全方位で飛躍的に洗練された走行性能を実現します。

##### 深化した魂動デザイン

デザインでは無駄を削ぎ落とし、研ぎ澄ましていくことで生まれる豊かな美しさと、ハッチバックならではの力強い塊感を追求。「日本の美意識」を体現し、マツダが考える理想的なハッチバックのプロポーションを描きました。

#### 次世代のマツダデザインを拓く、デザインビジョンモデル「マツダ VISION COUPE」

日本の美意識を体現し、「新たなエレガンス」を表現する特徴的なフォルム。このモデルとともに、魂動デザインの新たなステージが始まります。挑戦したのは、「引き算の美学」を体現したシンプルなフォルム、そして凛とした強い光と繊細な光の変化、そのコンビネーションによる新たな生命感の表現です。



# TOPICS

## 業務資本提携

### トヨタとマツダ、業務資本提携に関する合意書を締結

トヨタ自動車株式会社とマツダは、2017年8月4日、持続的な協業関係のさらなる強化を目的として、業務資本提携に関する合意書を締結し、クルマの新しい価値創造と持続的成長を目指し具体的な協業をスタートしました。

今後、両社はそれぞれの経営の自主性を尊重し、対等かつ良好な関係を中長期にわたり構築することで、今回合意した各共同プロジェクトでの協業実現に向けて検討を進めます。

#### 〈業務提携に係る合意内容〉

- (1) 米国での完成車の生産合弁会社設立  
-2021年生産開始に向けた準備を開始
- (2) 電気自動車 (EV) の共同技術開発  
-共同開発拠点として、テンソー、トヨタと新会社「EV C.A. Spirit 株式会社」を設立 (2017年9月28日公表)
- (3) コネクテッド・先進安全技術を含む次世代の領域での協業
- (4) 商品補完の拡充

また、両社の長期的なパートナー関係の発展・強化のために、相互に株式を取得しました。調達した資金は米国での完成車の生産合弁会社の設立に係る設備投資資金の一部に充当する予定です。

## 安全技術

### 先進安全技術標準装備化の取り組み

運転初心者から高齢者まで幅広いお客さまに安全・安心なクルマをお届けするため、ドライバーの認知・判断・操作をサポートする先進安全技術「i-ACTIVSENSE」を2018年3月期に国内主要5車種である「マツダ デミオ」、「マツダ アクセラ」、「マツダ CX-3」、「マツダ CX-5」、「マツダ アテンザ」に標準装備することを公表しており、2017年9月発売の「アクセラ」の商品改良モデルをもって、5車種が出揃いました。また、これら主要5車種の全機種が経済産業省や国土交通省などが普及啓発する「安全運転サポート車」の「セーフティ・サポートカー S」に該当しています。

2017年12月発売の新型「マツダ CX-8」も「i-ACTIVSENSE」を標準装備し、「セーフティ・サポートカー S」に全機種が該当します。

## SKYACTIV商品群の拡充

### 新型3列シートクロスオーバーSUV「CX-8」を導入

2017年9月14日に新型「CX-8」の予約受注を国内のマツダ販売店を通じて開始しました。

新型「CX-8」は、マツダの国内向けSUVラインアップにおける最上位モデルとなります。「走りやデザインを諦めたくない。でも家族や友人ともドライブを楽しみたい」と考えるお客さまに対し、多人数乗用車の新たな選択肢としてマツダが提案する、3列シートクロスオーバーSUVです。

12月14日の発売に向けて、好調な予約受注が続いています。



新型「CX-8」

## 生産体制強化

### 防府工場で新型「CX-5」を生産開始

世界的に販売が本格化している新型「CX-5」を2017年10月17日より防府工場(山口)で生産開始しました。現在、新型「CX-5」の生産は、国内ではその他に本社工場(広島)で、海外では中国とマレーシアで行っています。

また、近年の世界的なクロスオーバー系車種の需要増加に迅速に対応するため、国内の生産拠点においては、本社工場に加え、2016年12月に防府工場でも「CX-3」の量産をはじめ、さらに2017年8月に本社工場の車体工場においてクロスオーバー系車種の生産体制を強化しました。



防府工場 西浦地区



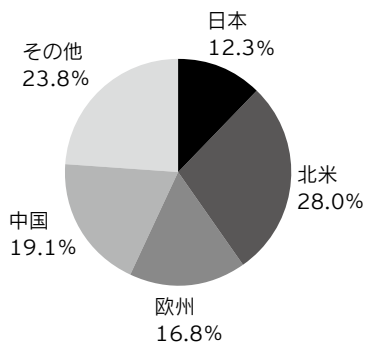
新型「CX-5」

# 連結業績ハイライト

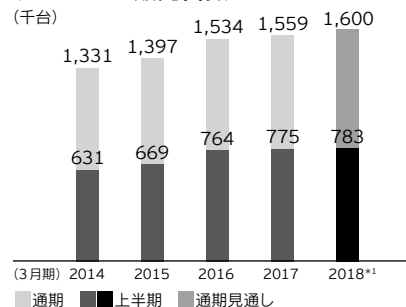
## 上半期のグローバル販売台数

783千台

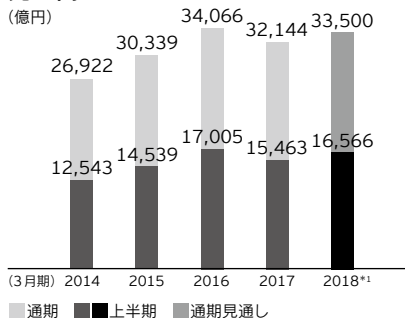
(前年同期比1%増)



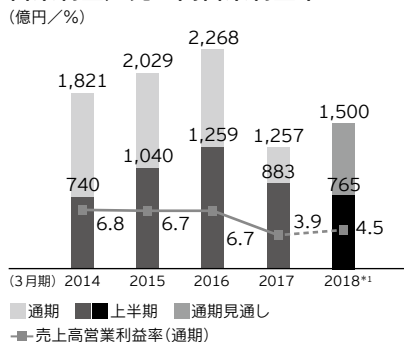
## グローバル販売台数



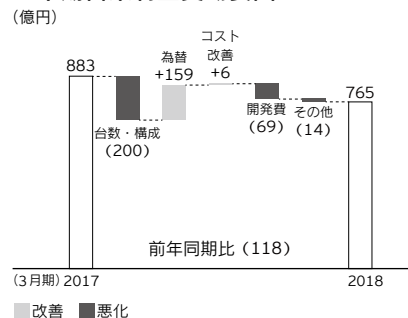
## 売上高



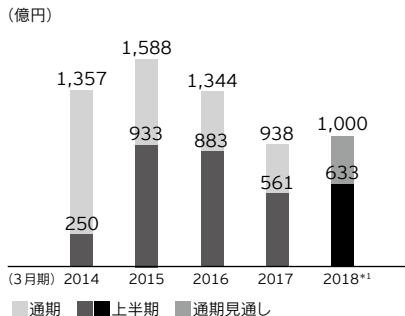
## 営業利益 / 売上高営業利益率



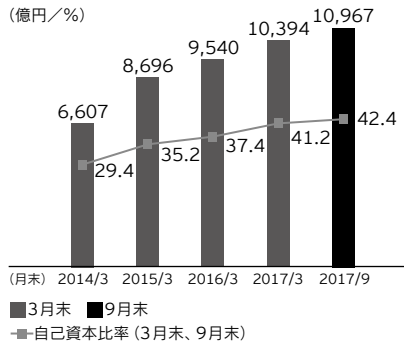
## 上半期営業利益変動要因



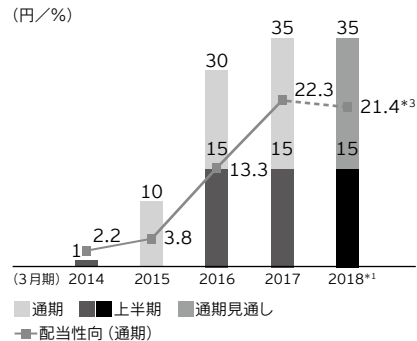
## 当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)



## 自己資本 / 自己資本比率



## 1株当たり年間配当金\*2 / 配当性向



\*1 2018年3月期通期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

\*2 当社は2014年8月1日付で、5株を1株の割合で株式併合しています。

\*3 2017年10月2日を払込期日とする第三者割当増資による発行済株式数の増加分を考慮しています。

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位：億円)

	2017/9末	2017/3末		2017/9末	2017/3末
資産の部			負債の部		
流動資産	13,722	13,424	流動負債	9,847	9,960
固定資産	12,128	11,822	固定負債	4,776	4,645
有形固定資産	9,687	9,593	負債合計	14,622	14,605
無形固定資産	345	332	純資産の部		
投資その他の資産	2,096	1,896	株主資本	9,934	9,420
資産合計	25,850	25,246	その他の包括利益累計額	1,033	974
			新株予約権	2	1
			非支配株主持分	259	245
			純資産合計	11,228	10,640
			負債純資産合計	25,850	25,246

\* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

### 連結損益計算書(要旨)

(単位：億円)

	2017/4 - 2017/9	2016/4 - 2016/9
売上高	16,566	15,463
売上総利益	3,934	3,796
営業利益	765	883
経常利益	965	826
税金等調整前四半期純利益	874	762
四半期純利益 (親会社株主に帰属する四半期純利益)	633	561

\* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：億円)

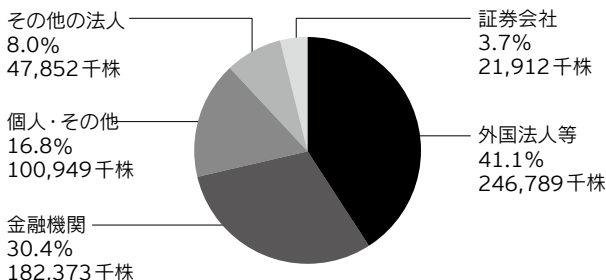
	2017/4 - 2017/9	2016/4 - 2016/9
営業活動によるキャッシュ・フロー	892	808
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 555	△ 121
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 124	△ 686
現金及び現金同等物に係る換算差額	84	△ 163
現金及び現金同等物の増減額	298	△ 162
現金及び現金同等物の期首残高	5,269	5,687
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,567	5,573

\* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

## 株式の状況 (平成29年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,200,000,000株
発行済株式総数	599,875,479株
株主数	146,889名 (前期末比4,302名減少)

### 所有者別状況



\*「個人・その他」には自己株式が含まれています。

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	35,950	6.0
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	30,321	5.1
株式会社三井住友銀行	12,857	2.2
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	11,252	1.9
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	10,526	1.8
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	9,503	1.6
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	9,479	1.6
THE BANK OF NEW YORK 133972	9,286	1.6
DEUTSCHE BANK TRUST COMPANY AMERICAS	8,966	1.5
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口7)	8,917	1.5

\* 持株比率は、自己株式2,050,099株を控除して計算しています。

(注) 平成29年10月2日を払込期日とするトヨタ自動車株式会社を割当先とする第三者割当増資により、発行済株式総数が31,928,500株、資本金が250億円増加しています(資本準備金の増加250億円を含め、自己資本は合計500億円増加)。

## 会社概要 (平成29年9月30日現在)

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	258,957,096,762円
従業員数	連結:49,725名 単独:21,980名
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話(082)282-1111
ホームページURL	<a href="http://www.mazda.com/ja/">http://www.mazda.com/ja/</a>

### 取締役および監査役

代表取締役会長	金井 誠太	取締役	坂井 一郎
代表取締役	小飼 雅道	取締役	城納 一昭
代表取締役	丸本 明	監査役(常勤)	河村 裕章
取締役	中峯 勇二	監査役(常勤)	安田 昌弘
取締役	稲本 信秀	監査役	平澤 正英
取締役	菖蒲田 清孝	監査役	堀田 隆夫
取締役	藤原 清志	監査役	玉野 邦彦
取締役	小野 満		

## 株主メモ (平成29年9月30日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
公告方法	電子公告 <a href="http://www.mazda.co.jp/">http://www.mazda.co.jp/</a>
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
・郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
・電話お問合せ先	☎ 0120-782-031
・ホームページURL	<a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>
単元株式数	100株
証券コード	7261

### IRサイト「株主・投資家情報」をご活用ください。

社長メッセージや決算情報、プレゼンテーション資料など、さまざまな情報を掲載しています。

<http://www.mazda.com/ja/investors/>



本誌は植物油インクを使用しています。